

春季集中学習会 助動詞復習テスト①

一年 組	番
名前	

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞きければ、	過去	の助動詞	「けり」	已然形
①	つひに命もなくてやみにしかば、		の助動詞	「	形
②	送りに来つる人々、これより皆帰りぬ。		の助動詞	「	形
③	あはれ知らむ人に見せばや。		の助動詞	「	形
④	多くの人殺してける心ぞかし。		の助動詞	「	形
⑤	かばらなれば飛び降るとも降りなむ。		の助動詞	「	形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞きけり。	動詞	カ行四段活用	「聞く」	連用形
⑥	装束もたぎことなむ、ものにも似ぬ。	詞	活用	「	形
⑦	世の中にたえて桜のなかりせば	詞	活用	「	形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	黒き雲にはかに出で来ぬ。 風吹きぬべし。	黒い雲が急に	()	()	()
⑨	八重律茂れる宿のさびしきに 人こそ見えね秋は来にけり	幾重にも暮らむべしが残つてゆく宿は、たなびき荒れ果て寂しい人訪ねてなげけれど	()	()	()
⑩	その深にかきほたいとおもしろく咲きたり。	その深にかきほたがとてあつてく	()	()	()

春季集中学習会 助動詞復習テスト②

一年 組	番
名前	

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞 <u>き</u> ければ、	過去	の助動詞	「 <u>けり</u> 」	已然形
①	擧げ <u>て</u> 、舎人が寝たる足を狐に食は <u>る</u> 。		の助動詞	「 <u>る</u> 」	形
②	悲しくて、人知れずうち泣か <u>れぬ</u> 。		の助動詞	「 <u>ぬ</u> 」	形
③	新大納言、さつと立た <u>れ</u> けり。		の助動詞	「 <u>れ</u> 」	形
④	人を苦しめ、法を犯さ <u>し</u> めて、		の助動詞	「 <u>し</u> 」	形
⑤	あつま <u>れ</u> る人ども、一度に「は」と笑ひたり。		の助動詞	「 <u>れ</u> 」	形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞 <u>き</u> けり。	動詞	カ行四段活用	「 <u>聞く</u> 」	連用形
⑥	男はた寝 <u>ら</u> れざりければ、	詞	活用	「 <u>ら</u> 」	形
⑦	いと思ひの外なる人の言 <u>へ</u> れば、	詞	活用	「 <u>へ</u> 」	形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	新院のおりあさせ給ひての春、 詠ませ給ひけるとかや。	新院が退位なさった春に	()	とかいうことだよ。
⑨	卯月つひたち、詠 <u>め</u> る歌、	陰暦四月一日に ()	()	歌は、
⑩	悲しくて、人知れずうち泣か <u>れぬ</u> 。	悲しくて、人知れず ()	()	。

春季集中学習会 助動詞復習テスト③

一年 組	番
名前	

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞きければ、	過去	の助動詞	「けり」	已然形
①	何のたのしびかあらむ。(たのしび…楽しむ)		の助動詞	「」	形
②	子泣くらむ。		の助動詞	「」	形
③	人のたやすく通ふまじからむ所に、		の助動詞	「」	形
④	いかばかりか哀しかりけむ。		の助動詞	「」	形
⑤	さる所へまからむずるも、(まかる…参る)		の助動詞	「」	形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞きけり。	動詞	カ行四段活用	「聞く」	連用形
⑥	身をたすけむとすれば、	詞		活用「」	形
⑦	むべ山風をあらしといふらむ	詞		活用「」	形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	勝つべき <u>いく</u> さに負けること よも <u>あらじ</u> 。	勝つ (まさか)	() いくさに負けることは () 。
⑨	こころといふもののな <u>き</u> にや <u>あらむ</u> 。	心というものが ()	() 。
⑩	その人ならば <u>苦し</u> かるまじ。 入れ申せ。(苦し…差し障りがある)	その人ならば () 邸内に入れ申し上げなさい。	() 。

春季集中学習会 助動詞復習テスト④

一年 組	番
名前	

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞 <u>き</u> ければ、	過去	の助動詞 「 <u>けり</u> 」	已然形
①	袈裟 <u>見ては</u> 、「うるはしき皮な <u>めり</u> 。」		の助動詞 「 <u>り</u> 」	形
②	鏡に色、形あ <u>らましか</u> ば、うつら <u>ざら</u> まし。		の助動詞 「 <u>し</u> 」	形
③	長押 <small>なげし</small> の下に人々伏して <u>いらへ</u> すなり。 (<u>いらへ</u> …返事)		の助動詞 「 <u>り</u> 」	形
④	あに人臣の礼た <u>らん</u> や。		の助動詞 「 <u>ん</u> 」	形
⑤	もの食はずは、生く <u>べ</u> からず。		の助動詞 「 <u>ず</u> 」	形
⑥	蟻の <u>ごとく</u> 集まりて、東西に急ぎ、南北に走る人、		の助動詞 「 <u>く</u> 」	形
⑦	物も言はぬに <u>や</u> あらむ。		の助動詞 「 <u>む</u> 」	形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	あひ見ずは 恋しきことも <u>な</u> からまし。	(あの人と)	実際に <u>会</u> わなかったならば	()。
⑨	物も言はぬに <u>や</u> あらむ。	物も ()		()。
⑩	冬枯れのけしきこそ、秋には をさをさ <u>劣</u> るまじけれ。	冬枯れの様子は、秋には ほとんど ()		()。